

2025.5.22

令和7年度 和坂小学校・環境学習桜守活動報告

藤原春善(1093)

1, 活動日時: 2025年5月22日9時~11時30分

曇り時々晴

2, 活動場所: 明石公園

3, 活動人員: 和坂小学校(近藤先生・3年生)4+55名

明石市まちづくり協議会サポート隊8名

明石公園桜守ボランティア6名

NPO 法人兵庫県樹木医会樹木医(和田・藤原)

4, 活動内容

(1) 桜の環境体験学習としてシメイヨシノについて説明し、現状を観察し、3年生からの感想を聞きながら以下のことについて考えた。

この植物は、ソメイヨシノと呼び、オオシマザクラとエドヒガンの^{こうざつ}交雑により

発生した植物で、実ができないため、接ぎ木で^{ばいよう}培養した桜である。

ソメイヨシノはバラ科サクラ属に属する園芸種。

① 葉の役割と健康について

・冬季に葉がないため、落葉^{かりよく}広葉樹又は夏^{こうよう}緑^{じゆ}広葉樹と呼ぶ

・葉が出る前に花が一斉に咲き美しい。花には^{みつ}蜜があり、シジユカラ、

スズメ、メジロ、ヒヨドリ等の鳥類が^{みつ}蜜を吸いにやってくる。

・葉で光合成{光・水・^{にさんかたんそ}二酸化炭素^{ゆうきぶつ}で有機物(糖類)^{とうるい}}を作り、酸素を放出する}

② 病害虫について

・クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定され、バラ科植物を枯らすため駆除の対象になっている。特異な香りを持ち、フラス(^{ふん}糞と木くず)を木の根元に落とすため、発見しやすい。

・コスカシバは木の幹、枝に穴をあけ、樹皮下を食害し、^{じゆし}樹脂と糞を排出する。

・サクラフシアブラムシは新芽、枝先、葉裏に寄生し汁液を吸い、中が空洞の^{むしこぶ}虫瘤をつくる。5月からは、^{ちゅうかんしゆくしゅ}中間宿主のヨモギに移り秋にサクラにもどり、

えつとうらん
越冬卵を産む。

- ・ヒロヘリアオイラガは葉を食害し、幹に繭^{まゆ}をつくり、幼虫に触れると激しい痛みを伴い皮膚炎^{ひふえん}を起こす。

③ 周辺の植物

シバ、アオカモジグサ等イネ科植物、シロツメクサ、カンサイタンポポ他、

④ 土壌動物

ミミズ、オカダンゴムシ、ダニ、トビムシ、モリチャバネゴキブリ他、

⑤ 土壌硬度^{どじょうこうど}について（山中式土壌硬度）

- ・ 0～7mm：生育不良（乾・軟^{なん}）、
- ・ 8～22mm：生育良好（適）、
- ・ 22～26mm：生育やや不良（やや硬い）、
- ・ 26mm～30mm：生育不良（硬い）、
- ・ 30mm 以上：生育困難^{けんこう}（堅硬）

⑥ コケ類^{ちいるい}（地衣類、^{せんたいるい}蘚苔類）

地衣類は、ウメノキゴケ、コフキジナリア他

蘚苔類はギンゴケ、ヒロハツヤゴケ他





主幹枯れ、ヒコバエと胴吹き回復、地衣類と小枝にサクラフシアブラムシの虫瘤^{むしこぶ} コスカシバの侵入孔



開口空洞がり、クビアカツヤカミキリの侵入予防ネット（回復木と衰退木） 開口空洞内に不定根



開口空洞内があり衰退した桜

グラウンド土手の健全な桜